

## 「伝えたい まどかのこと」～訪問サービス編～

### \*Aさんと私のやりとり\*

(スタッフ／近藤理恵)

Aさんは中重度の認知症があります。ある朝の訪問。

「おはようございます。まどかです」と、声を掛けても返事はありません。

「誰か来た!寝ているとことに入ってきて何よ!頼んでないわよ!帰ってよ!」

布団を頭まですっぽりかぶり寝ている Aさん。さあ…どうしよう…。様子を見ながら何度か声をかけてみるのですが、背中を向けさらに布団の中にもぐり込み、なかなか顔を見せてはくれません。Aさんは、甘い物や歌が大好きなのでコーヒー牛乳を用意して、声をかけながら痛いという足をさすってみたり、「可愛いベイビ～ハイ、ハイ、」と歌ってみたりしながら、布団から顔を出してくれるのを待ちます。

「もう、うるさいなー!何よこれ!誰が濡らしたのよ!私は知らないから!」

ビッショリ濡れたシーツを見てご立腹。「そうよね、冷たかったでしょう」と話をしながら、体を拭き、着替え、シーツ交換をします。

「何よそれ!そんなの知らない!」

朝のお薬は、息子さんの子供の頃の話をしながら一口。歌をうたってまた一口と、なんとか飲んでいただきました。

「♪カラスの赤ちゃんなぜ泣くの～♪」

まどかに向かう車の中では歌ができるほどにご機嫌の Aさん。まどかに来てからも大好きな歌をうたっていました。

### \*思い通りには…\*

(スタッフ／権田歩)

訪問サービスでも色々なエピソードがあります。

「待ってま～す」と電話があったのに着くと出てこないとか、なかなか起きられないとか、その利用者さんそれぞれのペースがあり、「今は着替える必要はないの」など、こちらの思っている通りにはまずいかない、と思っても良いかもしれません。

まどかに来所されている時とは違って、自宅はその方にとつてのフィールドですから、その中に入っての“行い”はなかなか難しい事です。

でも、まどかでは見ることのできない“その人となり”にふれることができ、その方に合った対応を考えることが醍醐味、楽しさのひとつでもあります。